

「ほっとルーム」だより



第142号 令和2年6月1日発行
いちき串木野市家庭教育支援連絡協議会
(教育委員会 社会教育課内 TEL 21-5130)

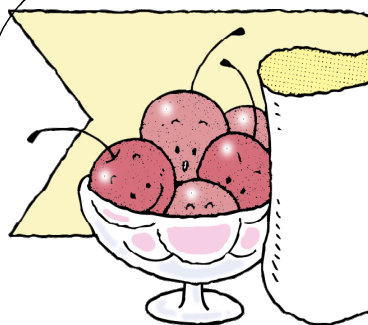
学校再開

子どもたちにとっても、保護者の皆さんにとっても、待ちに待った学校再開。入学・進級の仕切り直しですね。

子どもさんの様子はいかがでしょう。市内のある小学校の学校だよりに子どもさんの詩が載っていました。「あ～、もう休みはいやだ。ぼくらは外で遊びたい」と。子どもたちの叫びでしょうか。気持ちが伝わってきます。

学校が再開し、張り切って登校し、頑張って帰って来た子どもたちの気持ちを大事にして、話をしっかり聴いてあげて、励ましや受け止める言葉かけをしましょう。

子育てアドバイス



子どもが頑張るには、愛の充電が必要！

子どもの大きなエネルギー源は、
「自分は愛されている」
「自分には居場所がある」
と、**子どもが感じる**ことです。



10秒の魔法を！

・ゆっくり数えて、10秒、しっかり抱っこ

ふれあいは、時間ではなく、「質の高さ」と「タイミング」

- ・朝、起きて、親子が顔を合わす場
- ・子どもが帰宅して「ただいま」と声をかける瞬間

子育ての中で、気になること等があったら、一人で悩まず、いつでも気軽に、ご相談ください。一緒に語りましょう。

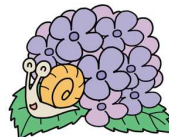
ほっとルーム： 教育委員会 社会教育課内
TEL 21-5130 : FAX 36-5044

※ ご希望があれば、長子に限らず、**どの学年でも訪問いたします。**

県の相談機関

かごしま教育ホットライン24

TEL：0120-783-574 (携帯電話はつながりません)
TEL：099-294-2200



地域と保護者の皆さんが協力して
「お茶の袋詰め」をしました。～川上小学校～



川上小学校のお茶の収穫は、自然豊かなこの地を利用した、食農教育の一環としての取組で、昭和23年から約70数年の歴史があります。お茶の香りただよう中、地域の方々の協力のもと、学校の歴史を受け継いでいます。

5月9日（土）は、「お茶の袋詰め」をしました。例年は、多目的室の畳の間で、子どもも入ってぎゅうぎゅうの中で行っていましたが、今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長机を分散して密にならないように工夫をしました。そして、子どもたちの写真が載った袋に、お茶の葉を90グラム計って、詰めていきました。今年の収穫量は少なかったようですが、お茶の質は良いとのことでした。

参加した保護者の声 ➡ このような状態なのに、お茶の袋詰めなどができたことがうれしい。子どもたちへの愛情を込めて袋詰めしました。
➡ 皆が顔見知りなので、学年を超えて、和気あいあいと親しく話せます。小規模校なりの良さですね。

長子家庭訪問について

「ほっとルーム」だより140号で「4月から長子家庭訪問を始めます」とお知らせしましたが、新型コロナウイルスの流行で、全国に緊急事態宣言が出されたこともあり、訪問を控えておりました。

5月に入ってから、1年生の長子家庭訪問は、感染拡大防止のために、ドアはロックせず、訪問名刺をポストに入れての名刺訪問にしています。名刺の裏に、電話番号が書いてありますので、お話になりたい事等があったら、お電話してくださればありがたいです。尚、今後については、状況を見ながら訪問を検討してまいりたいと思います。



生きる (抜粋)

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディーを思い出すということ
くしゃみをする事
あなたと手をつなぐこと



谷川俊太郎

生きているということ
いま生きているということ
泣けるということ
答えるということ
恐れるということ
自由ということ

